

図書館協議会 令和7年度第2回定例会 会議録

【日時】 令和7(2025)年10月16日(木) 午後3時00分～4時25分

【場所】 中央図書館(3階)研修室1

出席委員 菊池議長他8名

欠席委員 6名

【事務局】

中央図書館長、副館長、
管理係長、総合サービス係長、
希望ヶ丘図書館長、安積図書館長
富久山図書館長
担当職員

【会議の概略】(司会:管理長)

- 1 開会
- 2 館長・議長挨拶
- 3 議事・・・議事進行(菊池議長)

(1)報告事項

(ア)令和7年度事業報告

事務局(副館長及び各地域館長)から資料に基づき説明のち質疑応答。

・議長から

PDCA、

- ① 多くの人に広げる工夫
- ② 目的に対する到達度の設定
- ③ 次への展開の目標設定が必要

(イ)視察研修の総括

事務局から概要説明のち、参加委員から感想

委員:

【東京こども図書館】職員の意識の高さ、熱意、選書等、子どもたちの研鑽する心を育てる。
アナログな雰囲気。

【国際子ども図書館】博物館的で、日常的に利用する図書館ではない。

委員:

【東京こども図書館】職員の意識が高い。蔵書も洋書、作家別の他子供たちの希望に合わせた選書をしている。

【国際子ども図書館】建築文化財的。もう一度訪問したい。

(ウ)図書館情報システム更新による再開館について

事務局から資料に基づき説明。貸出冊数5→10冊、富田・逢瀬・片平オンライン化、

LINE連携(友達登録1200名)その他サービス拡充

(工)その他

事務局から公共施設等総合管理計画と使用料の見直しについて説明。

、(2)協議事項「第五次郡山市子ども読書活動推進計画の策定」について

総合サービス係長から説明ののち質疑応答

委員:小中学生の時、図書館が遠くて行けなかつたため、学校の図書室を利用していた。

学校図書室が充実し、子どもたちだけではなく、地域や保護者にも楽しく喜んでもらえる場所になると良い。

館長:子ども読書活動推進計画の基本方針②に該当する貴重な意見。公共図書館と学校図書館の橋渡しの方法の一つ。学校司書を通じて進めしていくが、現在十分に踏み込めていない。

委員:公共機関は利用者のニーズにはこたえようとするが、オーダーには不十分。理念と方針の間に「見える」ものが必要。中小企業支援を例にとれば、金を貸してやることではなくどうやったら儲かるかを教えてほしいということだ。

館長:子ども読書活動推進計画の「基本理念」は、何をするのかを明確にするため第5次計画から設定した。具体的に見えるよう変化をしていく。(ビジョン→ミッション)

赤沼副議長:すべては子どもたちのために。外国籍、障がい児など多種多様な子どもたちのために、地域、いろいろな人がもれなく参加できるインターナショナルなイベントが開催できると良い。

委員:多種多様な取り組みが増えることが楽しみである。

委員:読書活動の推進にあたり、子どもたちと一緒にいる小学校、幼稚園、保育所の先生や校長の質の差がある。教室に入り先生も一緒に本を読むクラスと、読書の結果を採点するだけの先生のクラスではおのずから差が出てしまう。

館長:子どもたちだけでなく、保護者の不読書率が高いことも問題である。保護者や学校への問いかけを進めていく必要がある

菊池議長:まとめ

- ① 各取り組みに対する検証が必要である。
- ② 各地に図書館があるが、各館毎の理念、方針を落とし込む当事者感覚が必要である。
- ③ 得られた結果を数値化して可視化できるようにして検証できるようにしなくてはならない。どの取組が何を意味するのか、その結果は何か、何をどこに落とし込むのか、評価の基準をどこに置くのかという計画が不可欠。

4 その他

5 閉会

司会:以上を持ちまして第2回定例会を終了します。次回は12月18日(木)を予定しています。
(16:25了)